



# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆  
近藤真弘

T940-0052  
長岡市神田町1丁目4番10  
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋 潔・高橋利春  
屋代 健・飯泉隆史・太田匡哉  
山内芳次・近藤龍弘・近藤マリ子  
近藤久美子

印刷・株式会社印刷



ホームページ



Instagram

ご家族の皆さままでご覧下さい

## 『相承』

泰忍 弘

あけましておめでとうございます

本年もよろしくお願ひ致します

本年令和六年は大本山總持寺御開山太祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌の年です。

瑩山禪師は道元禪師が中国から伝えられた正伝の仏法を弟子たちと共に日本各地に拡げ曹洞宗教団の教線の拡大に寄与されました。此度の大遠忌では平成二十七年に迎えられた大本山總持寺二祖峨山韶碩禪師の六五〇回大遠忌と合わせて『相承』というテーマを掲げています。

相承とは師から弟子に法が伝えられることです。お釈迦さまの仏法は脈々と相承され、道元禪師や瑩山禪師を介し確実に現代まで受け継がれております。我々僧侶にとつては仏法を相承することと同様に寺院の住職を受け継ぐことも大切なことです。

私も令和元年に晋山式を厳修し安善寺の住職を受け継ぎました。

その後も何ヶ寺かの晋山式に随喜(お手伝いすること)させていただきました。随喜の際には「焼香侍者」という配役をいただくことが多くありました。このお役は新命住職の五人の侍者である五侍者の一人で、新命住職の傍で様々な補佐をさせていただき、新命住職以外で唯一須弥壇上に上れるお役です。

謂わば晋山式で新命住職の一番間近にいたることのできるお役です。特に須弥壇上での法語を唱え大問答に答える際、新たにお寺を受け継ぐ重責に感極まる姿、緊張で震える姿、決意の表情、高鳴る胸の鼓動が聞こえてくるかのような佇まい、傍らでみるその全てが尊く、改めて私



晋山式山門法語



釈尊から脈々と伝わる仏法

自身もお寺の住職を受け継ぐことの一大事を実感することができました。寺院の本堂は法堂とも言い、法を説く場所であり、法を安善寺の法堂にて多くの檀信徒の皆様にご伝えていきたく思います。また、本年六月には地域のご寺院と同で瑩山禪師七〇〇回大遠忌大本山總持寺団参旅行を行います。瑩山禪師、峨山禪師のお膝元で多くの皆様にご祖師方の大いなる足音を聞いていただければ幸いです。

連載 第一回

# 安善寺の歴史

昌興寺住職

石田 哲彌

(新潟県文化財保護連盟理事)



御開山長翁存宗大和尚



安善寺山号額

「季刊蔵王山安善寺」の前号103号にて長岡市昌興寺 御住職 石田哲彌 老師に寄稿の御依頼をして蔵王の安禅寺様にまつわるお話しを掲載させていただきました。その際一緒に当寺安善寺の歴史をお調べいただきました。それは安善寺御開山と蔵王の安禅寺様、また堀直寄との関わり等、私も承知しない興味深い内容であり、石田老師にお願ひし、今号から1年間の予定で連載として掲載する事となりました。檀信徒皆様にも是非安善寺の歴史に触れてみていただければと思います。

尚、歴史のお話ですので諸説あることを理解した上で掲載させていただきます。

安善寺

## 【1】はじめに

蔵王権現の別当「安禅寺」と同名の寺、「安善寺」が神田に鎮座する。しかも山号は「蔵王山」と、蔵王権現と深い関係を示唆しているが、安善寺に関しては下記に挙げるわずかな口碑しか存在していない。したがってこれまで安善寺と蔵王権現、別当安禅寺とつながった関係は全く不明であったし、当然、その歴史もまた不明であった。

今日知られている安禅寺・安善寺に関する伝承(口碑)をあげてみよう。

## 【1】安善寺開山の長翁存宗和尚

が千葉より布教線拡大のために来越天文6年(1537)に普濟寺に入り、その6年後の天文12年(1543)に神田に安善寺を建立。その開山となった。

## 【2】天文12年(1543)、蔵王権現別当、安禅寺の法灯を分採(分かち合い)して神田村に安善寺を創立。

【3】安善寺開山の存宗和尚は蔵王権現の安禅寺に3年間、寄寓していた。

## 【4】元和年間、蔵王堂城主堀直寄が(長岡城築城のために)

神田の安善寺を仮城として3年余り寄寓(寄宿)していた。【5】安善寺が建立された神田には、かつては大沼城があった。その内容は断片的で不確かなものであるが、その時代背景を鑑みると、長岡市の中世、戦国時代から近世、江戸時代初期における重要な歴史のキーポイントであることは間違いない。

問題は【1】のように、北国の霊場と称され多くの諸国巡礼が訪れ繁栄していた蔵王権現

## とその別当安禅寺の「法灯」を安善寺と「分採」せざるをえなかった理由はなにか、である。

「分採」とは本末の関係ではなく、安禅寺・安善寺が同等の関係をもち、蔵王権現を護持していくという関係である。一体、その背後にあったものはなにか。

さらに後年、江戸時代初期、堀丹後守直寄が信濃川の氾濫によって蔵王堂城が決壊され、新しい城を築くことを決意。新しい城を中心とした都市計画を行なった。そして即、実行に移されていった。

## こうした中で神田の安善寺は城主堀直寄の寄宿舎となり、建設現場の指令塔として重要な役割を果たしていた。

安善寺は長岡市の歴史においてほとんど登場しないが、実は隠れた世界では重要な位置に存在していたのではないかと推測される。そして、長岡市の歴史において重要なキーポイントとなっているのではなからうか。

## 次回 【2】「蔵王堂の蔵王権現別当 安禅寺と神田の安善寺、普濟寺の関係」に続く

# 凡聖庵会 越後地区茶会(安善寺)

太田 宗裕

表千家、松本英樹宗匠主催による凡聖庵会の全国大会が長岡で10月14・15日の両日開催されました。コロナのため、4年ぶりの大会となり、どのくらいの方がおいでになるか不安でしたが、北は旭川、南は長崎より約170名の方が

おいでになりました。また長岡市の茶道文化協会の方々30名も参加されました。14日は、中越地震に被災された山古志を訪れ、その後、小千谷の錦鯉、花火館を訪ねられ、夜は利き酒など越後の酒を堪能していただき、大いに盛り上がりつつ親睦会でした。



曹洞宗安善寺で私が濃茶席を担当

15日は、3つの茶席が設けられ、朝日酒造の松籟閣で松本宗匠が濃茶席、ホテルニューオータニ長岡の朝日の間で家内が薄茶席、そして曹洞宗安善寺で私が濃茶席を担当しました。当日は小雨の天気でしたが、5台のバスに分乗し3つの各茶席を回られました。安善寺の参道が傘をさした和服姿のご婦人で埋まりました。

安善寺様に茶席をお借りできたのは、母がお付き合いしていた妙喜寺との繋がりがあり、また息子たち家族が安善寺の住職ご家族と親しくお付き合いをさせて頂いているお陰と思います。

安善寺での茶席は、寄り付きに本堂をお借りし、奥の客間を茶席としました。寄り付きの掛け物はお寺の板橋興宗禅師の「円相」。本席は天室宗竺和尚の「白満々」。因みにニューオータニの朝日の間の掛け軸は、釈良寛の「道白雲」。いずれも悟りの境地を表しているものと思われます。真塗及台子に小野珀子の袖裏金彩の皆具、霰釜、鬼面風炉、いずれも母たちが使っていた道具を集めてみました。茶入は藤四郎の尻はり、茶碗は道入の黒、銘「ノキ」。茶杓は惺齋作、銘「養老」。お菓子は大和屋製の「命かがやく」。今回の茶会は、われ

もこう社中で茶席を2席持つということで、人のやりくりをどうしようか悩みました。神田の子どもたちです。毎年正月には我が家で子ども初釜をやっており、子どもたちもお茶に触れる機会は多かったです。ですが、お運びなどやったことがありませんでした。茶会の前々日に子どもたちに集まっていただき、お茶碗の持ち方、歩き方、お茶碗の出し方などショートレクチャーをしました。若いと言う事は素晴らしく、すぐにマスターし、本番でもその初々しい姿を皆さんに褒めていただきました。女の子は着物姿、振袖の子もいました。男の子は制服、袈裟姿。子どもたちの出現で、お茶の世界は、これからも安泰との言葉も聞かれました。本当に皆様に喜ばれた有意義で楽しい茶会でした。会場をお貸ししてくださった安善寺様、お茶会を支えてくださった皆様、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



当日、お運びを手伝う子供たち



和服姿のご婦人で埋まった安善寺参道

# 安善寺さま、むかし昔のおはなし【その一「深い森」】

西神田町 石塚 寿一

長岡旧市街のほぼ真ん中、古刹安善寺さまの、檀家の方々の親睦誌『安善寺』の編集を分担される、近所の小児科医師太田匡哉さんから、小生がこの地に長く住み、町内役員なども体験し、お稲荷様や寺院について、昔のことなども知っているようなので、何か一文を書けないかとお話しを頂きました。小生、長岡ペシンクラブに在籍十数年の老翁「それは光栄なこと。長年お世話になった地域の人々に、恩返しできれば。」と、未熟な老骨をも省みず、奮起お引き受け致しました。ここで、ペシンクラブの末席ながら、一席（二首）お読み下さい。

小児科で つぶらな瞳 あ  
また見て われも生きなむ  
この子らのため

私は、安善寺さまの広い境内のすぐ隣に住んでいます。小学校の幼い二年生の時からなので、もう八十年になりました。幼少のころ、樹齢数百

年はある大きな樺数十本に囲まれた境内は、子供たちの絶好の遊び場所でした。いずれ詳しくお話しますが、この樺たちは、今を去る約七百年も昔、鎌倉時代の末期に、「深い沼」も存在し、「大沼」と通称された広い湿地帯の、ほぼ中央を埋め立て、回りに、戦の時の防禦用の深い「濠」を掘り、その土で周囲に、大雨のとき脇を流れる内川（柿川）の氾濫対策も兼ねた「堤（土手）」を築き、その「堤の土固め」「土止め」用として植えられた樹木が、この樺たちだと思われまます。そこに、「大沼城」と通称される平城（平地につくった城。防禦も攻撃もできる武士の屋敷）を作ったのが、鎌倉幕府、北条執権一族の、「北条惟秋」「惟明」の親子です。十数代も続いた北条執権の鎌倉幕府は、1333年に足利尊氏に遂に敗北し、「すわ！鎌倉」とばかり、はるばる越後（長岡）から、鎌倉と京都へ応援

に出陣していた北条惟秋、惟明らも帰途、無念にも全員勇猛壮絶な最期を遂げるのですが、詳しくはその時に致しませ。さて子供たちは、この広いお寺の境内を親しく、「安善さま」と呼んでいました。三国志の諸葛孔明のように聡明なガキ大将だったのは、銭湯大和湯の三男坊です。私は彼の忠実な手下の一人でした。幹の直径が一メートル近くの、つるりとした樺の大木には、さすがに子供たちは登ることは出来ず、そこで、その周囲に立ち並ぶ低い「タモ」の木に登って、枝に荒縄を張り巡らして類人猿みたいになり、ハンモックの寝床を作ったり、あるいは、木の幹に海賊船の旗印「髑髏」を彫ったりして遊んでいました。しかしその内に、亡くなられた当時のご住職様に見つかり、叱られご迷惑をおかけしたこともあります。その頃は、まだ「テレビ」も「ゲーム」も「スマホ」も

何も無く、子供たちは「外遊び」が多かったのです。長岡旧市街をほぼ全焼灰塵と化した私の父も、その一人、焼死者千五百人あまり出した、昭和20年8月1日の『長岡大空襲』の時には、広い境内をぐるり取り囲むように立ち並ぶこの樺の巨木たちが猛火から安善さまを守ってくれたとのこと。しかし、さすがの大木も寄る年波には勝てず、大雪や台風で、老化した太い枝が折れ落下し、枯葉の季節には、大量の落ち葉が周辺に舞い散り、積もり、さらに、昼なお暗いほど生い茂る大木の葉っぱは、民家の日照も妨げるようになつたので、危険かつ不都合と判断され、十数年前に

ほとんど伐採されたのは、やむを得ないことです。しかし、それらの巨木の切り株には、それぞれ、お地藏様が一体ずつ埋め込まれ、丁寧に供養されました。私は、境内のやや離れの北側の、西神田町通称「御蔵小路」で、春、夏、秋、冬、80年間、この森を眺めながら暮らしてきました。特に、新緑の季節には、夕方になると、広い境内と周囲の家々をスッポリ包み込むように香る「フィトンチット」（新緑の若葉の発する殺菌性のある香り）には大変癒されます。この深い森の動物や植物たちの事なども様々思い出されるのですが、年寄りの昔話、思い出話、次の機会と致します。



戦火の跡が残る大樺



安善寺の庭



石塚邸から望む安善寺の木々



# 令和六年六月二十七日(木)～二十九日(土) 曹洞宗 大本山 總持寺参拝・宿泊の旅

新潟ビーエス観光 飯泉 隆史

新年あけましておめでとうございませう。令和6年はどんな年になりますでしょうか？

さて、曹洞宗は二本山といひまして福井県の永平寺様と横浜市鶴見区の總持寺様がございませうが本年は總持寺様を開かれた瑩山禪師の七〇〇回大遠忌の年となります。總持寺様は歴代のお祖師さまが連綿と受け継がれてきたお釈迦様の教えを全国に広める中心的寺院となつたお寺です。

そしてこの度は教区の団体参拝旅行として總持寺様に参拝・



大本山總持寺 大祖堂



大谷観音堂

大谷磨崖仏



大谷石採掘場



母畑温泉

宿泊をする2泊3日の旅行を計画致しました。安善寺様は新潟県第一宗務所第五教区に属して居ます。この教区は長岡中心部のお寺様からなります。今回はその旅行についてご案内を致します。

期日は六月二十七日木曜日から二十九日土曜日の三日間です。一日目は長岡を出発し、横浜市鶴見区に向かいます。東京都内に入り、豊洲市場で自由昼食となります。築地から豊洲に市場は移り、今現在では豊洲市場ぐるめとして

三十九店舗の飲食店があり、またお買い物エリアも充実しています。一日いられるような施設になっていきますね。

昼食後總持寺様に到着します。到着後は雲水さん(修行僧からの指示に従い、諸堂拝観薬石(夕食)、法話、入浴、開枕(就寝)を九時に迎えて一日目が終わります。二日目は早朝より本堂である大祖堂にて皆様の先祖供養と朝課(朝のお勤め)を行い、小食(朝食)をお召し上がりいただき本山を後にします。簡単ですがご本山での

流れをご案内させていただきます。その中で大遠忌の法要も行われると思えますので私も楽しみます。

その後、本山を後にし、栃木県は宇都宮を目指します。昼食は道の駅ロマンチック村にて。大変大きな道の駅で売店も充実していますので食事と買物をお楽しみください。そこから大谷寺に向かいます。坂東観音霊場の一つのお寺で大谷石に包まれたように建てられたお寺で岩壁に彫られた摩崖仏がとても神秘的です。また高さ二十七メートルの大谷観音も見所の一つです。その後、大谷資料館にご案内致します。ここは大谷石の採掘場の跡で地下に巨大空間で幻想的な空間が広がります。よく特撮ヒーローの作品などがここで撮影されます。

そして福島県の母畑温泉に向かいます。温泉もとても良質で吹き抜けの建物は圧巻です。夕食は大宴会！皆様でワイワイと盛り上がりましょう。

最終日はいわき市を巡ります。池に囲まれた国宝の白水阿弥陀堂。いわき市は炭鉱で有名ですがそこで見つかった化石と

昔の炭鉱をイメージした地下空間がある石炭化石館ほるる。昼食は海の幸を頂き、美空ひばりの歌碑もある塩屋埼灯台を巡り、磐越道から長岡に帰ってきます。

今回の大遠忌のテーマは相承。お釈迦様の教えを受け、行い、継いでいくことをそう表します。五十年に一度の法縁です。とても充実した二日間になるかと存じます。皆様お誘いの上ご参加いただきたくお待ちしております。

■旅のご相談・お申し込みは  
新潟ビーエス観光まで  
TEL 0258-3414848

安善寺よろず掲示板

## 『寺行事予定』

元旦 新年大祈祷

檀中一般年賀来山

一月一日～三日

三朝祈祷

一月二十一日

初月忌総代・世話人会

二月十二日

吒枳尼尊天初午大祭典



# 猫は炬燵の方がいいでしょ？

## そうなんです！

## 家族みんな大好きなんです!!



新しい年を迎え、安善寺での暮らしも2年目に入りました。

凍えるようなベランダの間風も自慢の毛皮があれば寒さなんてへっちゃら！とはいかず、ファンヒーターの前でまったり過ごしている毎日です。

猫は炬燵の方がいいでしょ？って？。そうなんです、家族みんな炬燵が大好きなんです。久美さんも早々と用意してくれ、ビビも私も入りっぱなし。時には炬燵の中でケンカをしたり。ところが炬燵布団が気持ちよすぎて何度も粗相をしてしまった私……。結果、ファンヒーターと電気毛布でこの冬を乗りきることになっていました。

そうそう、これほど寒くなる前にベランダの外へ出ることを許されたのです。(ビビは危なっかしいので私だけ) 風



ファンヒーターと電気毛布でこの冬を乗りきるアンとビビ

を感じ、季節の匂いをかぎ、鳥達のさえずりを直に聴いている、とついつい鼻先がお空へ向いてしまうのです。私の幸せなひとときです。ただ、しばしば久美さんは私を出したことを忘れてしまうので、仁王立ちをし、必死な形相で窓にへばりつき助けを呼ぶことになるのです。これが冬の寒空でおこつたら：

今の時期は怖くて外に出る気もしません。暖かい春がくるのを楽しみして窓の外を見ている私です。今度はビビも一緒に外で遊びたいニャーん。



第一〇五号は令和六年三月十日(日)発刊予定です

### 編集 雑感

新年明けましておめでとうございます。今年(甲辰)の年になり、真っ直ぐに堂々とそそり立つ大木を表し、龍が現れるとめでたいことが起こると言われています。成功と成功が成長していき、姿を整えていくと縁起の良さを表していると言えそうなので今年(乙巳)と良いことがある年になるでしょう。なつて欲しい年です。世の中が騒然としていることが続いているだけに願望としても良き年になるように期待するものです。安善寺の季刊誌もまだまだ回を重ねて歴史を築いていますが、編集者の古参は年々歳を重ねて

動きが鈍くなってきています。しかし、若い編集者が参加して戴き活性化しております。編集の長い歴史に小生は二回欠席をしましたが、基本的には日程を選べて行うので欠席はほとんどないのですが、今回は編集長抜きの皆様で作って戴きました。いよいよ編集委員長交代の時期が来たようです。若い方々が安善寺のことを考え継続して季刊誌を発行することが歴史を作ることにあります。

この現代においても戦争があつちこつちで起きています。日本は平和ですがいつこの混乱に巻き込まれるか判りません。宗教がらみの闘いは泥沼化してしまします。人間の欲望だけで起こす戦争は収めることが早いですが、心に問題があるようでは解決が難しいでしょう。日本の平和はいろいろな面がありますが、教育水準が高い事や日本の歴史が教えてくれています。仏教の教えは人の心のあるべき姿を教えていると思います。現代だからこそもつとお寺を活用し教えを伺い実践することが重要になるでしょう。争いは個々の心の持ち方であり、争いは個々の心の中であります。平和な余の中でありますように、皆様は幸せでありますように、本年は益々良き年となるよう願っております。

(小林 国二)

### お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。

FAX 0258-32-2870

〈原稿送付先〉メール info@anzenji-nagaoka.com

HP にも申込フォームがあります